カトリック両王の時代

- 「スペイン王国」の成立
- イサベルとフェルナンドの統治 ※1492年の4つの出来事
- スペイン「国民形成」とカトリック両王
- イサベル女王死後の混乱⇒ハプスブルク・スペインの時代へ

Tanto monta, monta tanto Isabel como Fernando.

カトリック両王の時代(1474~1516)





15世紀末のスペイン(国土回復運動の終焉)

ポルトガル王国 カスティーリャ王 REINO 国(カスティーリャ、レオン) Pamplona • ROSELLON Santiago CERDAÑA NAVARRA ナバーラ王国 Burgos CORONA •/Barcelona Toro CORONA アラゴン連合王 Zaragoza Medina DE ARAGON 国(アラゴン、カタ del Campo ルーニャ、バレンシ · Alcalá de Henares ア、バレアレス) REINO DE グラナダ王国 Toledo Valencia Guadalupe Lisboa Mérida DE CASTILLA PORTUGAL Córdoba REINO DE Palos • Sevilla Granada Unión territorial en 1479 GRANADA Almería Conquista en 1492 Territorios cedidos por Francia en 1493 Anexión en 1512

「スペイン王国」の成立

- -1468年9月、イサベルがエンリーケ4世と協定を締結(ギサンド)
- -1469年、カスティーリャ王女イサベルとアラゴン王子フェルナンド の結婚
- -1474年、エンリーケ4世死去。イサベルがカスティーリャ王に即位 宣言。
- -1475年、夫フェルナンドとの間にセゴビア条約を締結、カスティーリャの共同統治に合意。王位継承戦争の勃発。
- -1476年2月、イサベルはトロの戦いに勝利、女王の地位を確立。 マドリガルでコルテス(王国議会)を開催。
- -1479年、フェルナンドがアラゴン王に即位。ポルトガルとアルカソヴァス条約を締結。「スペイン王国」の共同統治。
- -1480年、トレードでコルテスを開催。王国統治制度の諸改革。
- -1482年、グラナダ戦争を開始。

イサベルとフェルナンド の統治



- ・ 1492年の四つの出来事
 - (1)グラナダ陥落(1月2日)、レコンキスタ(再征服)の終結
 - (2)ユダヤ教徒の追放令を公布(3月31日)
 - (3)コロンブスのアメリカ到達(10月2日)、新大陸のコンキスタ(征服)の開始
 - (4)ネブリーハ『カスティーリャ語文法』を出版

カトリック両王の国内統合政策(1)

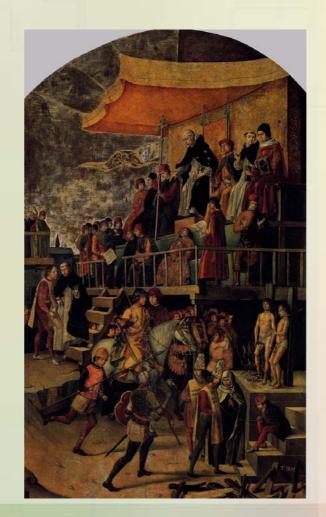
⇒宗教的国家的統一

「カトリック王政」(Monarquía Católica)

〇異端審問所の設立

(隠れユダヤ教徒の弾圧)

〇ユダヤ教徒追放令の公布



カトリック両王の国内統合政策(2)

○グラナダ陥落



○イスラーム教徒の強制 改宗 ⇒モリスコ



同時代の「カトリック両王」イメージ



新大陸の「発見」











ネブリーハ『カスティーリャ語文法』



Antonio de Mebrica

Brāmatica

de la légua castellana

Sa lamanca.

Enel año ve mil z ccccrcij

「言語は帝国の伴侶である。」

Cuando bien comigo pienso, muy esclarecida Reina, y pongo delante los ojos el antigüedad de todas las cosas que para nuestra recordación & memoria quedaron escritas, una cosa hallo & saco por conclusión muy cierta: que siempre la lengua fue compañera del imperio. Y de tal manera lo siguió que juntamente començaron, crecieron, y florecieron. & después junta fue la caída de entrambos. [...]

スペイン国民形成と「イサベル女王」

・ 「回帰的・懐古的・伝統的」 なスペイン・ナショナリズム

- ・ 祖国の肖像=イサベル
- ・ 15世紀末にすでに「国家統一」が実現したとする。
- ――「イサベルとフェルナンドの 幸運な結婚」
- · 王政
- · 宗教
- · 軍隊
- ・ スペイン語
- ⇒「イスパニダー」神話 (10月12日)
- ⇒ナショナル・カトリシズムへの 動き

《カトリック女王イサベル記念碑》(マドリード、1883年) ---メンドサとグラン・カピタンを伴う。



カトリック両王と歴史的記憶





王冠/カスティーリャ/レオン/アラゴン/シチリア/軛(くびき)/5本の矢の束/「鷲」の聖ヨハネ/ナバーラ/グラナダ/"Plus Ultra"/"Una, Grande, Libre"(一つにして、偉大で、自由である)

(補説)現在のスペインの国章

- · 国旗
- · 国章

1981年に制定

- 国歌 《 "Marcha Real"
- ・ ナショナル デー

10月12日=「イスパニダー」の日

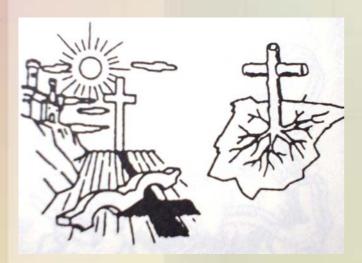
- 憲法

1978年憲法(12月6 日)

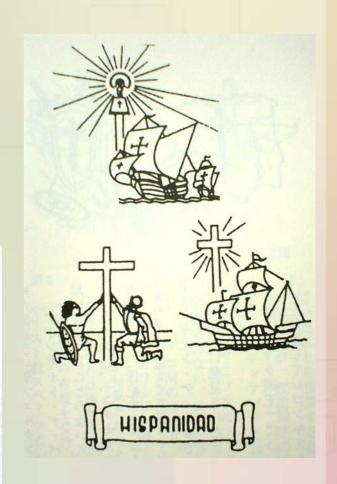




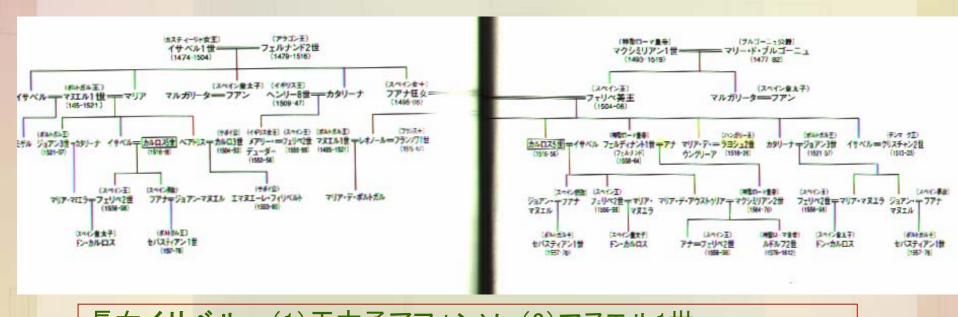
フランコ時代の歴史教科書







カトリック両王の婚姻政策



長女イサベル=(1) 王太子アフォンソ、(2) マヌエル1世 長男フアン=マルガリータ(マクシミリアンの子供、フィリップ美公の 妹)※1497年没 次女フアナ=フィリップ美公(マクシミリアンの子供) 三女マリア=マヌエル1世(ポルトガル王) ※ィサベル死後に 四女カタリーナ=(1)王太子アーサー、(2)ヘンリー8世(イングランド 王)※イギリス宗教改革

イサベル死後の混乱からフェルナンドの死去、孫カールの国王即位まで

- 1504年11月イサベル1世没。カスティーリャ王 国女王にフアナ1世が即位。
- ・ 1506年4月、フアナの夫フィリップが共同統治 王フェリーペ1世として即位(9月に死去)
- · 1512年、ナバーラ王国、カスティーリャに併合
- · 1516年、フェルナンド2世の死去により、カルロス1世即位(ブリュッセルでの「クーデタ」)。

→ハプスブルク朝スペインの開始

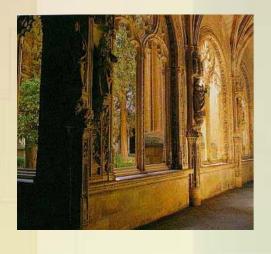
-トレードの聖ヨハネ教会

-グラナダの王室礼拝堂

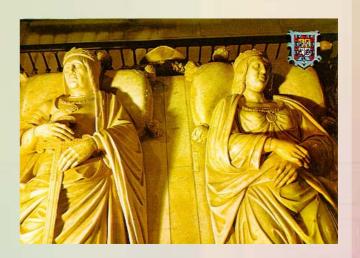












マクシミリアン1世の家族

(宮廷画家シュトリゲルによる肖像画)



フィリップ美公とフアナ1世(狂女王)







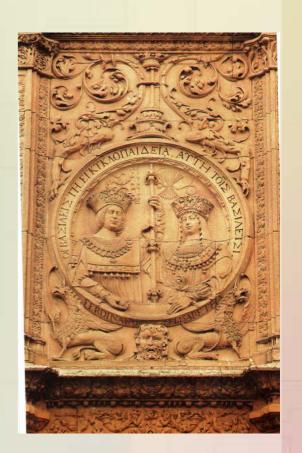
》『女王フアナ~ 愛し過ぎてしまった女~』 フアナ(ピラール・ ロペス・デ・ア ジャラ)

狂女王フアナ



カトリック王フェルナンドの同時代像

- ・ ネブリーハ献上の言葉
- "tanto monta" ─「同じことである」(「ゴルディオスの結び目」 の逸話より)
- ニコロ・マキアヴェッリ『君主論』(1532 年刊行)
- 「一貫して宗教を利用し、敬虔な残虐行為を実践して、 自分の王国からマラーノたちを追放し、かつその財産 を奪った。」
- バルタサル・グラシアン『政治家,カトリック王フェルナンド』(1640年)
- 「あれこれの不信心者を浄化し、異端審問制という聖なる監視の裁判所を設けることによってスペインを宗教的なものにした。」



カール5世(カルロス1世)の版図

